



大聖賢

四十八

ま今 稽古の業ハ山家田舎のこゝなりて
いふは 武王のこゝに 紂王の思ふ世なり
くし 上古ハ唐土黃帝の四妃西陵氏よりて
なりし 我 日のあつても 命しき
さき ありと 終りて 世のあつても 命しき
春さうたつて 水 けり 人いふ 命しき
あきと 水 けり 人いふ 命しき
けり 命しき 命しき 命しき 命しき
命しき 命しき 命しき 命しき 命しき

何事もいふれとぬ人のつらき室にしか
 らしき今春もふもつとあつたあれ
 丹波とやふすいひあつたあれ
 のちてふもふもつとあつたあれ
 何れぬ人の位わくく備えはれ
 ゆふら

天明丙午春 東台岳北郷田舎人誌

かどやふふふ

春の低き

三月十日

軽気はに生れ

物と加ふと

たつたゆりか

てふふふ

おちおち

春の

ふふ

ふふ

勝川春章画



ゑん
 雲がくひなやい事
 う　素とあつく食
 なく雲のうきを眠
 ともしよふたは休ま
 分二度めはかすとき
 休九二に居るかけの

[illegible]

當年の事 廿三

重三郎の

乃

茶とらふに

卷之六

牙

たり

多

叔父
の

行

の

割

朱子

12

五

7

北尾重政画

膳川春章画

Shigemasa

Shigemasa



一、廣き
 二、廣き
 三、廣き
 四、廣き
 五、廣き
 六、廣き
 七、廣き
 八、廣き
 九、廣き
 十、廣き
 十一、廣き
 十二、廣き
 十三、廣き
 十四、廣き
 十五、廣き
 十六、廣き
 十七、廣き
 十八、廣き
 十九、廣き
 二十、廣き
 二十一、廣き
 二十二、廣き
 二十三、廣き
 二十四、廣き
 二十五、廣き
 二十六、廣き
 二十七、廣き
 二十八、廣き
 二十九、廣き
 三十、廣き
 三十一、廣き
 三十二、廣き
 三十三、廣き
 三十四、廣き
 三十五、廣き
 三十六、廣き
 三十七、廣き
 三十八、廣き
 三十九、廣き
 四十、廣き
 四十一、廣き
 四十二、廣き
 四十三、廣き
 四十四、廣き
 四十五、廣き
 四十六、廣き
 四十七、廣き
 四十八、廣き
 四十九、廣き
 五十、廣き
 五十一、廣き
 五十二、廣き
 五十三、廣き
 五十四、廣き
 五十五、廣き
 五十六、廣き
 五十七、廣き
 五十八、廣き
 五十九、廣き
 六十、廣き
 六十一、廣き
 六十二、廣き
 六十三、廣き
 六十四、廣き
 六十五、廣き
 六十六、廣き
 六十七、廣き
 六十八、廣き
 六十九、廣き
 七十、廣き
 七十一、廣き
 七十二、廣き
 七十三、廣き
 七十四、廣き
 七十五、廣き
 七十六、廣き
 七十七、廣き
 七十八、廣き
 七十九、廣き
 八十、廣き
 八十一、廣き
 八十二、廣き
 八十三、廣き
 八十四、廣き
 八十五、廣き
 八十六、廣き
 八十七、廣き
 八十八、廣き
 八十九、廣き
 九十、廣き
 九十一、廣き
 九十二、廣き
 九十三、廣き
 九十四、廣き
 九十五、廣き
 九十六、廣き
 九十七、廣き
 九十八、廣き
 九十九、廣き
 一百、廣き

[illegible]

のちとち

勝川春章圖



松山
 上中下と
 飛を
 はる
 東の
 細糸のまき
 粗束の
 まち
 天孫の
 引てし
 上中下と
 飛を
 はる
 東の
 細糸のまき
 粗束の
 まち
 天孫の
 引てし



北尾重政

〇
下
七



tosangusa
(mille-graving
etc.)
by Shunsho and
Shigemasa.
0000